

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.01発行 Vol. 3

＜神戸の今：西宮神社 十日えびす(兵庫県西宮市)＞ 高橋 幹夫

境内周辺には800軒を超える縁起物売る店や露店が軒をつらねています。

1月10日には「開門神事福男選び」が行われ、朝6時に外で待っていた

参拝者が一斉に230メートル離れた本殿まで走り一番福を目指します。

えびす様は商売繁盛の神様でもあり神戸の水産業者が商売繁盛と大漁を願って大まぐろと雌雄2尾の大鯛を奉納します。



西宮神社は、えびす神社の総本社で、古くより崇敬を受け特に「えびす・だいこく福の神」といわれるように、えびす様が福の神の代表となっています。えびす様は関西では「えべっさん」として親しまれ日本の神、七福神の一つで右手に釣竿、左手に鯛を持っています。

1月10日を中心に9日から11日までの3日間開かれる「十日えびす」は広く全国に知られ100万人の参拝客で賑わいます

＜私たちの活動：昨年の12月は、台湾との結びつきの深い月となりました。＞ 小高 功

1. 関西地方台湾留学生会聯合忘年会

台湾交流支援の会として初招待され、12月6日大阪梅田のホテルに2名で参加しました。(知人の神戸大の黄氏が幹事役をされることから招待の手紙を頂きました。) この学生会では、関西在住の留学生間で企業訪問・講演会等の就職関連・ハローウィン等の諸情報を共有しています。

忘年会には台北駐大阪経済文化辦事處の羅課長、兵庫日華親善協会会長他の方約30名が招待され、学生180人ほどと本当に和気藹々とした交流が行われました。両国の友好関係は今までになく強いものと参加者全員が強く認識しておりました。

2. 酒井充子監督の映画『台湾萬歳』(かつて日本人だった人たちを訪ねて

…三部作の最終章)を神戸元町の映画館で観賞しました。戦前日本の漁師が持ち込んだ「カジキの突きん棒漁」が台東縣成功鎮で現在も行われてる。それを生業にする老漁師の家族との穏やかな日々が、前二作の「変わりゆく台湾」に呼応する「変わらない台湾」として美しく描かれていました。

